茶況

9日

製茶業 景況横ばい

10～12月期予測

静岡経済研究所がこのほど発表した10～12月期の「県内主要産業の四半期見通し調査」によると、製茶業の業況は横ばいの「低調」を予測している。

秋冬番茶は台風による塩害などの影響で減産が濃厚だが、価格は堅調に推移した。ドリンク向けは堅調な需要が見込めるという。

一方、今秋は温暖な日が続くとみられ、リーフ茶の家庭需要への影響が懸念される。歳暮など贈答需要も低迷が続きそうという。

7～9月期の現況は、猛暑の影響でリーフ茶需要が落ち込み、製茶問屋の売上高は前年を下回ったとみられる。

袋井、森 袋井茶文化促進会などは7日、大学生と茶の将来について意見を交わす「お茶フォーラム」を袋井市の袋井南コミュニティセンターで開いた＝**写真**＝。

静岡文化芸術大の曽根秀一准教授(41)の下で学ぶ4年生4人が、「茶業振興における高付加価値戦略の事例」と題して研究を発表。茶の高級路線への行政支援や、企業と連携した「緑茶カフェ」の誘致などを提案し茶業関係者と意見を交換した。

足立采希さん(21)は「今回、皆さんからいただいた生の声を次の研究に生かしたい」と振り返った。

（袋井支局・伊藤龍太）

静岡新聞

© 静岡新聞社　無断複製転載を禁じます